

令和7年度 学校評価自己評価表 三次市立栗屋小学校

経営目標		短期経営 目標	具体的な取組・方策	評価指標	自己評価		8月分析	8月改善方策	学校関係者評価を受けて	自己評価		1月分析	1月改善方策	学校関係者 評価を受け て
中期経営 目標	8月				1月									
	達成値				評価	達成値				評価				
確かな学 力	自らの考えを豊かに表現することができる児童を育てる。 【表現力】	教科書の内容を理解し、活用問題も解くことができる。	① 個々の児童の動きを分析し、組織的な指導・支援により、それぞれの課題解決を図る。 ② 三次版「授業モデル」や十日市中学校区オリジナルカリキュラムを基に、栗屋授業モデルを活用し授業改善を推進する。 ③ 読書ファイルの活用等を通して、読書活動の充実を図る。	単元末テスト(算数科、国語科)で知識及び技能の学校平均の正答率70%以上、思考力・判断力・表現力等の学校平均の正答率50%以上。 ↓ 指標変更(9月) 知識技能80%以上 思・判・表70%以上	【国語】 知識技能104% 思考力147% 【算数】 知識技能113% 思考力131%	A A A A	・目標は達成できていた。 ・算数の計算など知識・技能を問う問題はよくできていた。しかし、思考力・判断力・表現力を問う問題はよくなかった。国語の読み取り問題はできていたが、漢字や言葉の問題の正答率が低かった。また、学年によってばらつきがあった。	・算数の授業で自分の考えを記述したり、人に説明するかかわり合いの機会を増やす。 ・基礎的内容を単元に関連して復習する。 ・複数の資料を読み比べて問題を解くような問題に取り組ませる。 ・言葉の意味を確認して使ったり、文を覚える活動に取り組む。 ・文章に読み慣れるよう読書活動を充実させる。	「確かな学力」について、基礎・基本の力の定着を図ってもらいたいとの意見をいただいた。 評価指標について、高学年と低学年で設定値を変えてもよいのではないかと意見もいただいた。目標に向けた取組・改善方を確実に実施する。					
		自分の考えを相手に伝えるように工夫して発表したり、書いたりすることができる。	① かかわり合いながら学ぶ場、自分の考えを伝え合う場を確保し、主体的な学びを深め、表現力を高める。 ② 持続的な学びに繋がるよう、授業のまとめや振り返りを書かせる。 ③ 成果物出品により自己肯定感を高め、表現することへの自信と意欲を高める。	学びの過程や振り返りを具体的に分かりやすくノート等に書いている児童90%以上。 成果物を前期・後期それぞれ3点以上作品応募に出品。	49% 102%	D A	学びの過程の達成率は56%、振り返りは33%であった。学びの過程では、高学年は100%であったが、低・中学年においては具体的にイメージできていないため達成率が低い。振り返りでは、低学年と高学年は視点に沿って書くようにしているが、具体的ではない児童が7割いる。 達成率は100%であった。5月から毎月俳句を応募し、夏休みにも一人2点以上は取り組ませた。	・高学年のノートをもとに、学びの過程や振り返りの具体的な記述とはどのようなものかを示す必要がある。 ・振り返りの視点を見直す必要がある。現在取り組んでいるものに加え、算数科の内容も書かせるようにする。 引き続き計画的に取り組んでいく。	「豊かな心と健やかな体」について、自己肯定感がさらに高まるよう、一人ひとりへの取組に対する評価や支援が、今後も丁寧に継続してほしいとの意見をいただいた。日常的な児童への肯定的評価、学級活動や道徳の学習を通して、自他を尊重できる児童の育成に努めていく。 児童に体力をつけてもらいたいとの意見をいただいた。体力テストの結果分析をもとに、後期からの体力づくりの取組を生活健康部を中心に計画・実施予定である。目標達成に向けて取り組んでいく。					
		豊かな心と健やかな体	非認知能力を育てる。	① 互いに認め合い、助け合う集団づくりを進める。 ② 挨拶、時間、当番活動等への責任感を高め、評価する。	挨拶、時間の意識、当番活動、自分や他者のよさ・頑張りを認めて周りに積極的に関わる児童を90%以上にする。(アンケート)	91%	B	・全項目の肯定的な回答をした児童の割合は82%であった。昨年度の結果と比較すると時間の意識の項目のみ肯定的な回答をした児童の割合が増加している。 ・今年度から追加された挨拶の項目は100%の児童が肯定的な回答をしている。児童会が中心となって挨拶にかかわる取り組みを行った成果であると考えられる。	・2学期はスマイルのわの取り組みを行い、周囲と積極的に関り、よさや頑張りを認め合うスキルを児童が身に付けられるようにする。 ・児童会を見習い、自分から挨拶する習慣づけを行うため、各学級で促していく。 ・教職員からの肯定的評価を大切にしていく。					
	基本的な生活習慣の確立と体力向上を図る。 【主体性】 【共感力】	① 生活習慣調査を定期的に行い、保護者と情報共有して課題の改善を図る。 ② 児童の運動への意欲向上につながる体育科授業改善や体育的行事、全校での体力づくりの取組を計画的に行い、体力向上を図る。	体力向上自己目標を設定(体力テスト、持久走、縄跳び等)し、自己目標を達成した児童を90%以上にする。	65%	C	・体力テスト前に自己目標を設定し、目標を達成した児童は、60%と目標を大きく下回った。 ・運動会直後に計画されていたため練習が不十分であったことや暑さ対策により、屋外での運動に規制がかかったことにより、体力向上を図る取り組みが不十分であった。	・チャレンジタイムにダンスを行い、楽しく体を動かす習慣を身に付けさせる。 ・グラウンドが土に代わり、活用の幅が広がったため、外で遊ぶ呼びかけを行う。 ・目標の設定は明確な数値で設定する。 ・体育科授業の最初に3分間縄跳びを行う。							
信頼される学校	児童・保護者・地域から信頼される学校経営を行う。	教職員の授業力向上を図る。	① 年2回以上研究授業を行う。 ② 校外研修や研究会に2回以上参加し、校内研修や授業改善に活かす。	職員の校内研修満足度を100%にする。	95%	B	・研修での学びが自分の行動化につながっているという項目で否定的回答が見られた。 ・限られた職員数で、複数の業務にあたるため、多忙感を抱えている。	・職員が主体的に研修に臨める体制を整えていく。 ・業務内容の精選、効率化を図り、授業準備も含め、児童に向き合う時間を確保していく。	「信頼される学校」について、学校として意欲的に取り組んでいる姿勢がうかがえるとの意見をいただいた。今後、地域との関わりをどのようにもっていけるか、対話をしながら進めていく。					
	児童が安心・安全に生活できる学校環境の維持、向上を図る。	① ホームページや通信等で学校の取組を定期的に発信するとともに、細やかな家庭連携を行う。	児童の肯定的評価を90%以上にする。	102%	A	・児童の肯定的評価は92%であった。児童の様子を定期的に交流し、校内で組織的に対応をしている。 ・ホームページでの発信を計画的に行うことで、情報発信・公開に努めた。	・児童が安心・安全に生活できるよう、引き続き職員間・保護者との連携を図っていく。 ・学校の様子や情報をさらに地域に発信できる方法を工夫する。							

評価／ A=100%以上 B=75%以上100%未満 C=50%以上75%未満 D=50%未満